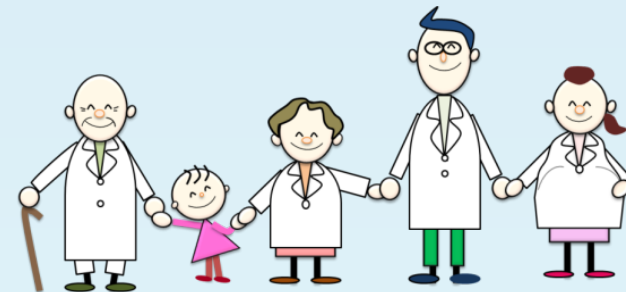


第4回 科学技術系専門職の 男女共同参画実態調査解析結果報告

志牟田 美佐

日本生理学会 男女共同参画推進員
男女共同参画学協会連絡会 提言要望WG 委員
大規模アンケート設問設定WG 委員



大規模アンケートとは

- ・ **科学技術専門職の実態把握と課題の抽出し
データに基づいた提言・要望活動書を作成**
- ・ **科学技術基本計画、男女共同参画基本計画
事業に提言・要望を反映させる**
- ・ **継続的な定点調査により科学技術専門職の
実態や意識の追跡し、施策の反映も調査**



1. 基礎データ

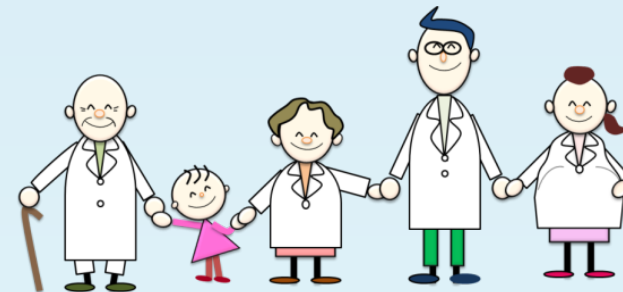


2. 雇用形態（任期の有無）・役職などの男女差（平均年収）

3. ワークライフバランス（子育てを中心に）

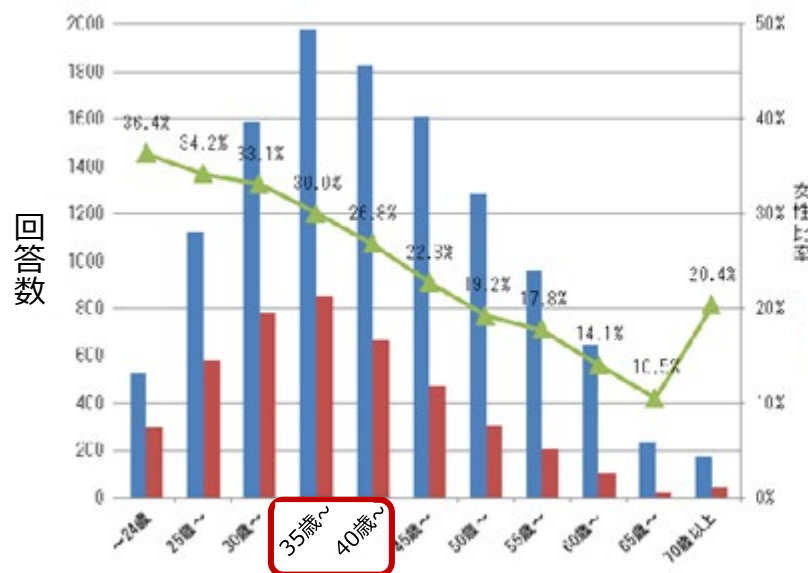


4. まとめ

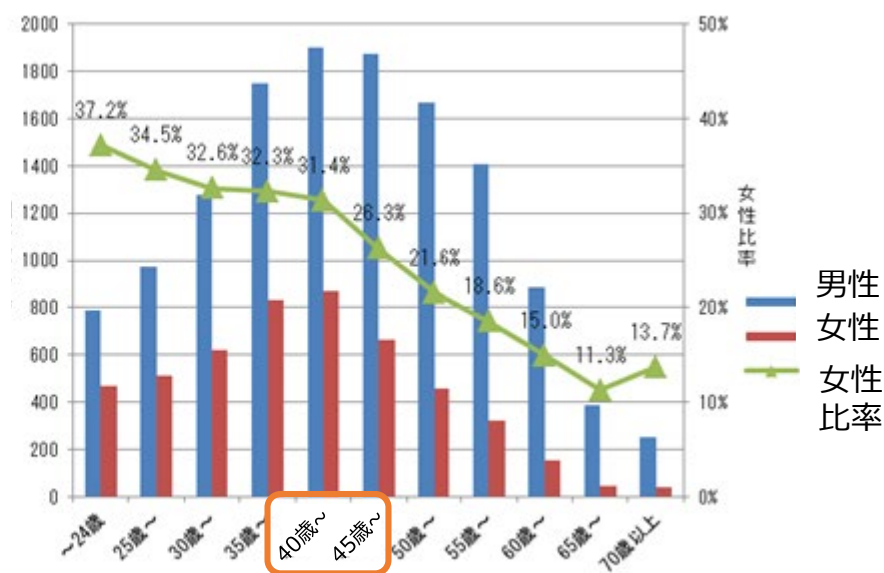


回答者の年齢分布と女性比率（総回答者数18,159人）

第3回大規模アンケート（2012）

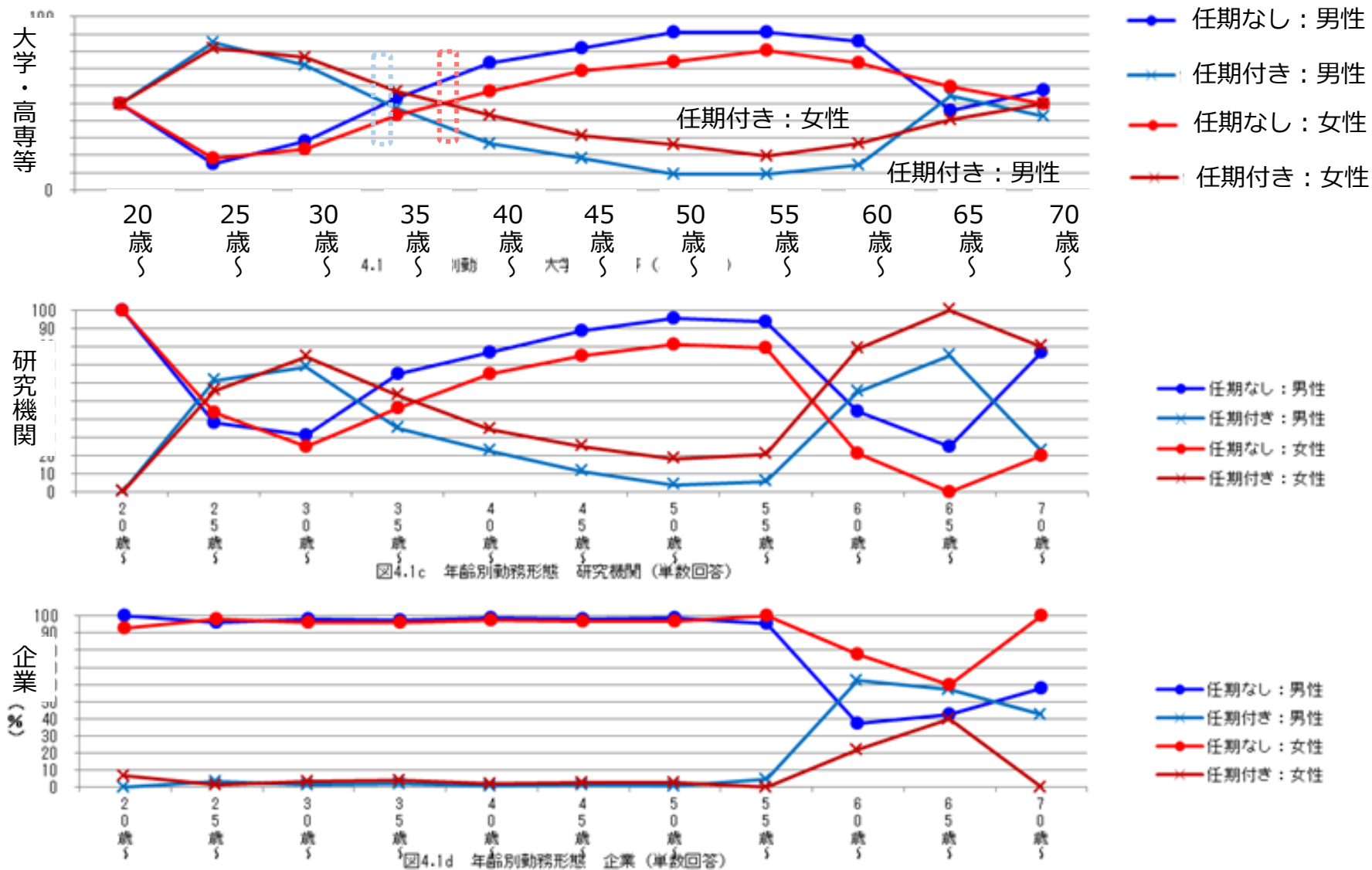


第4回大規模アンケート（2016）



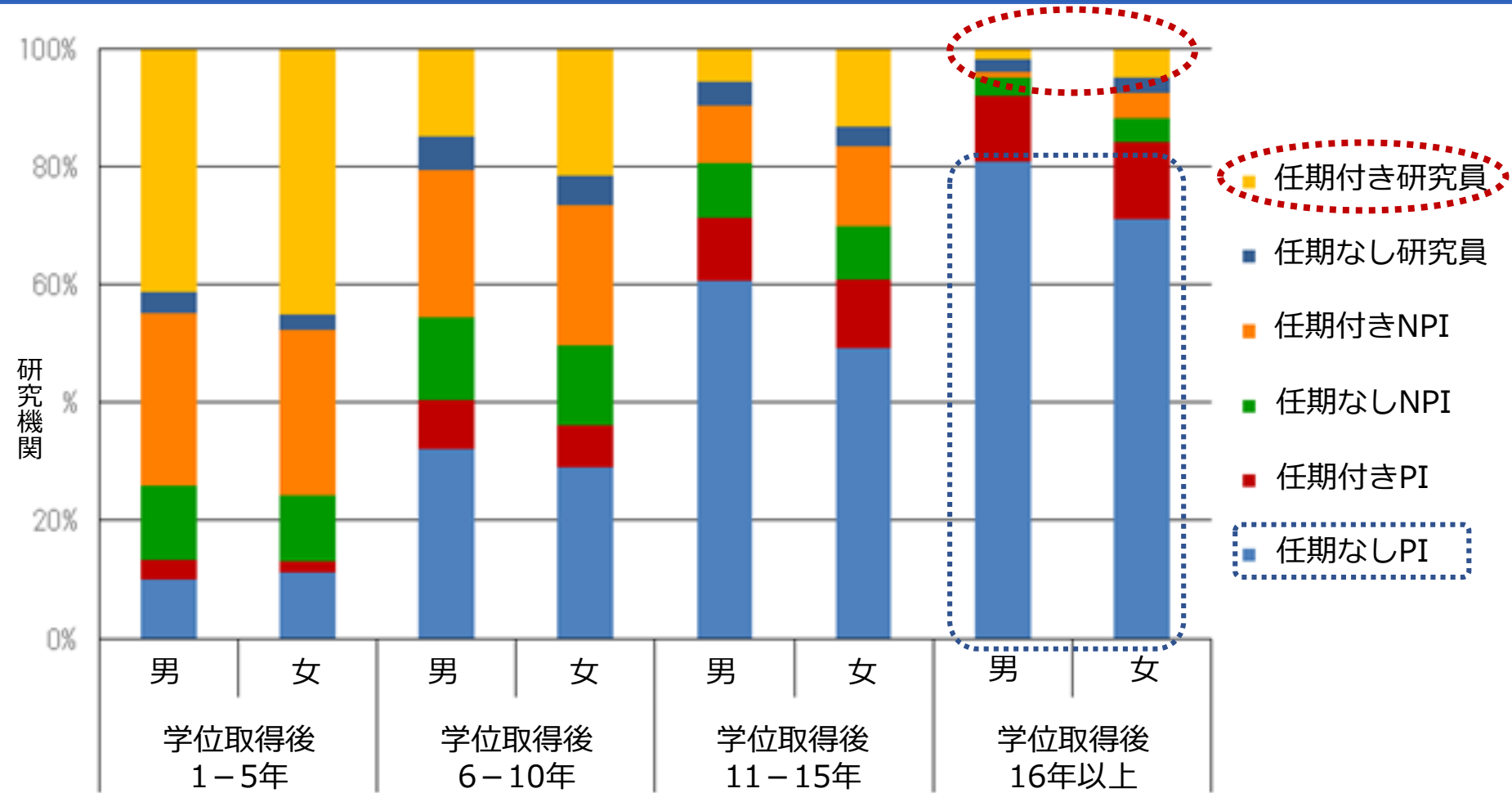
- 第3回よりも回答者の女性比率は上昇
- 前回最も回答した世代が今回も多く回答している

所属機関別の雇用形態



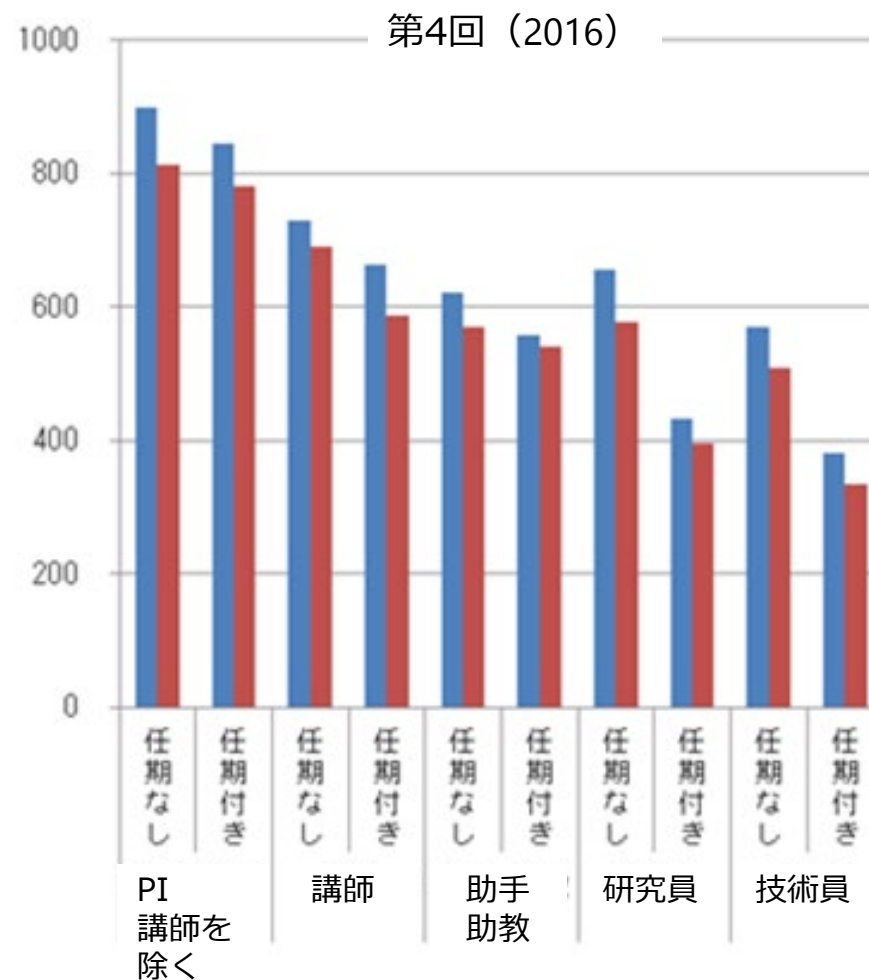
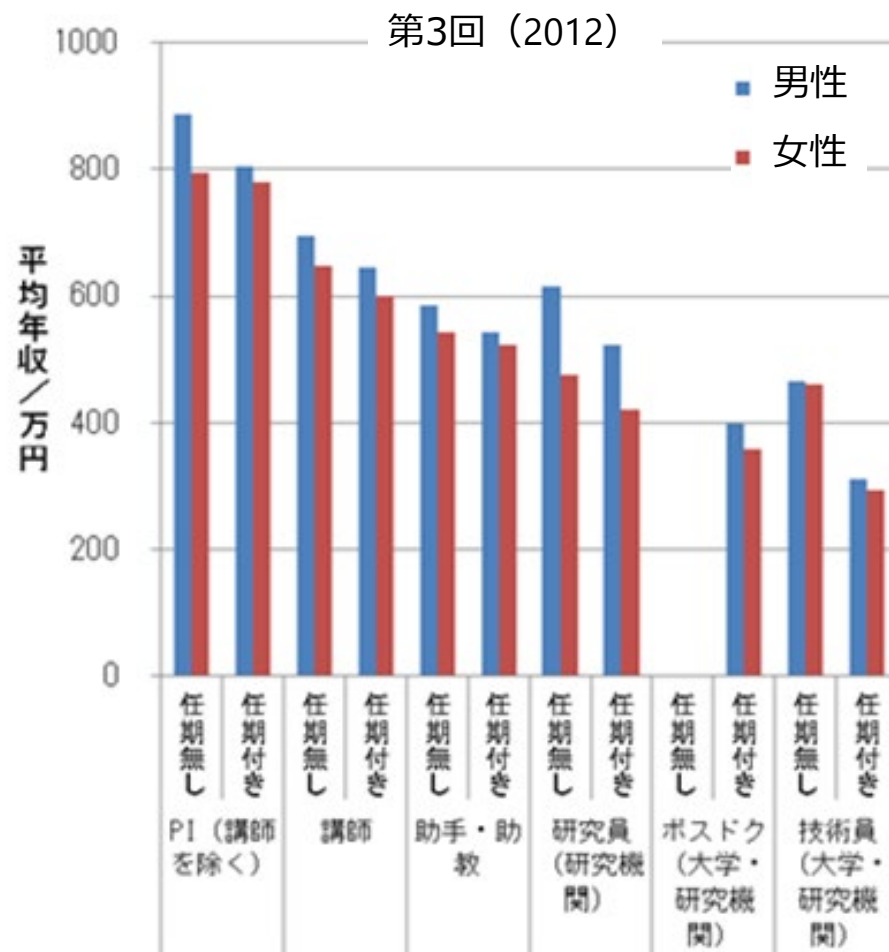
- 大学、研究機関では男性は35歳未満で任期付き職より任期なし職の割合が多くなる
- 女性では、35歳を過ぎても任期付き職の割合が高い。

学位取得後の経過年数と雇用形態



- 学位取得後16年以上（40代半ば）の任期付き研究員が存在している
- 女性の方が任期付き職の在職年数が長く、任期なしPIにつきにくい

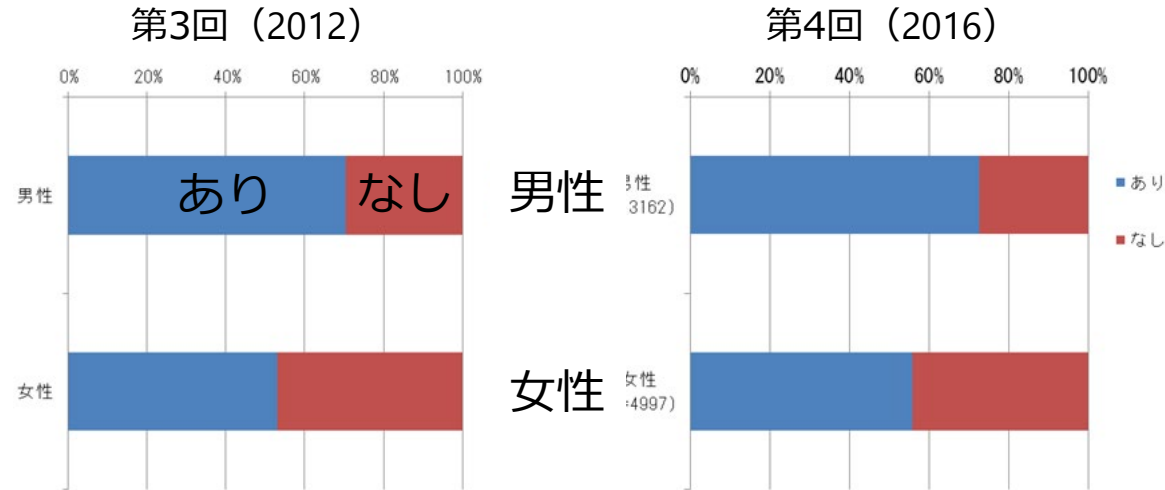
雇用形態別の平均年収



- 全般的に平均年収は上昇しているが、**いずれの職位も任付き期職が、任期なし職に比べて年収は低い**
- 職域や雇用形態に関わらず、**女性の方が年収は低い**

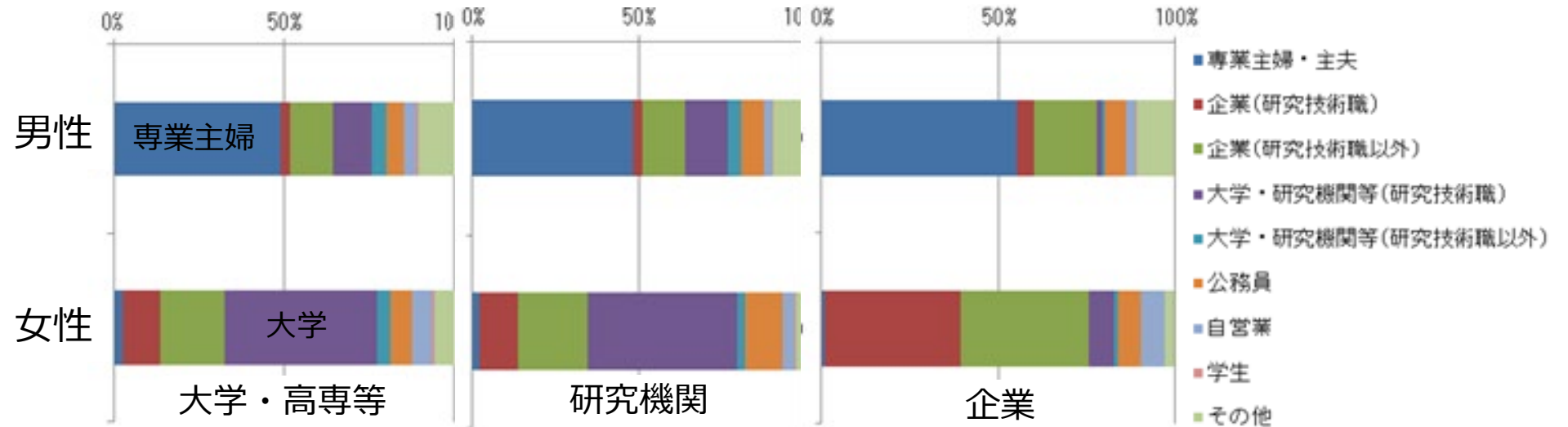
配偶者の有無、配偶者の職

配偶者の有無



男性の7割、女性の5割に配偶者がいる

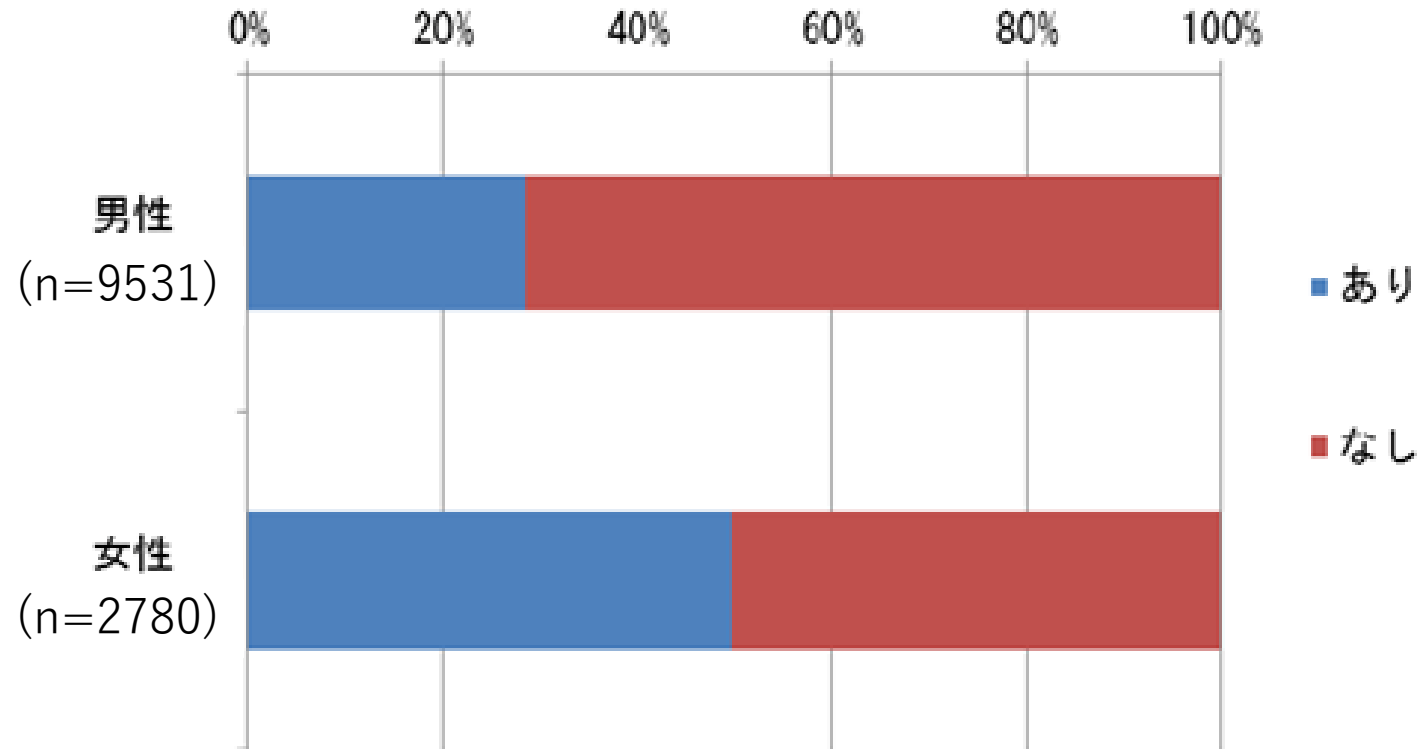
配偶者の職



- 男性の配偶者の半数は専業主婦。女性の配偶者の98%は有職。
- 大学・研究機関の女性の配偶者の多くは大学・研究機関等で働いている

職の都合による別居経験の有無

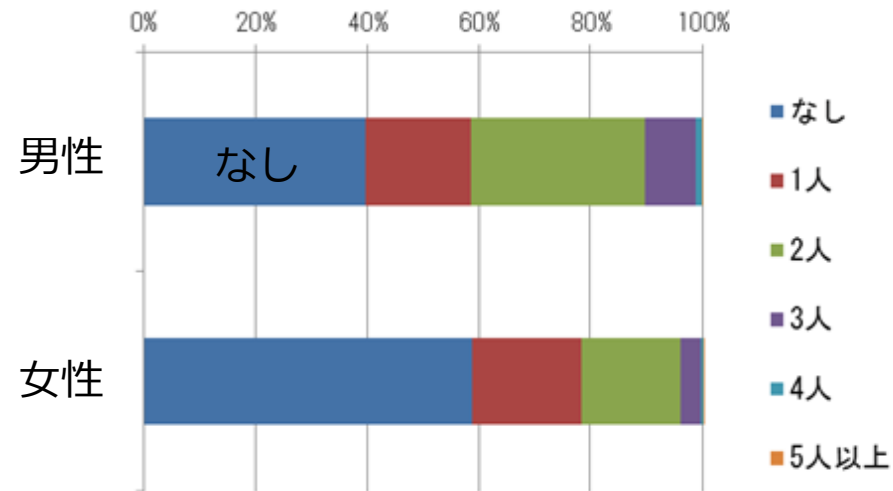
職の都合による別居経験の有無



配偶者を有する男性の3割、女性の5割が職の都合により別居を経験している

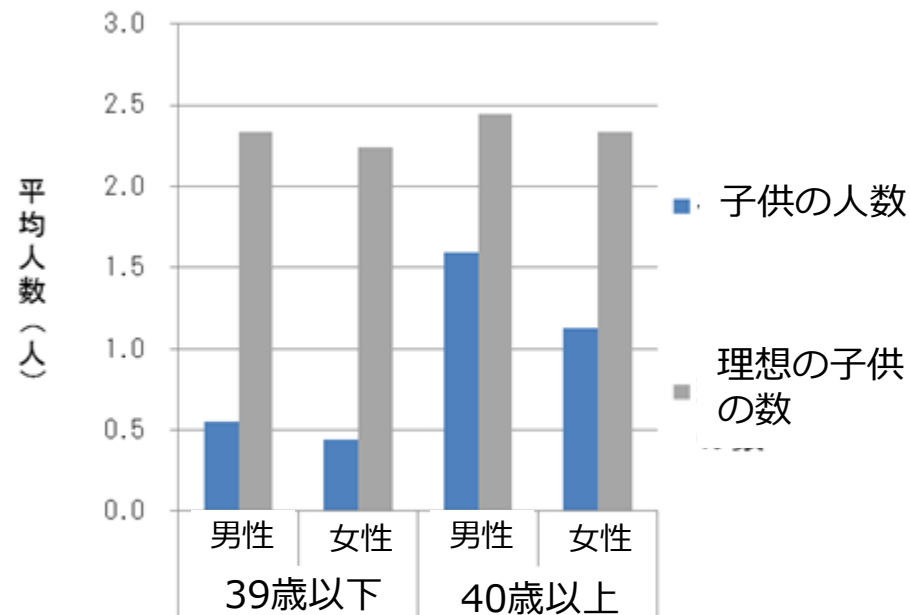
子供の人数、子供の数の現実と理想

子供の人数



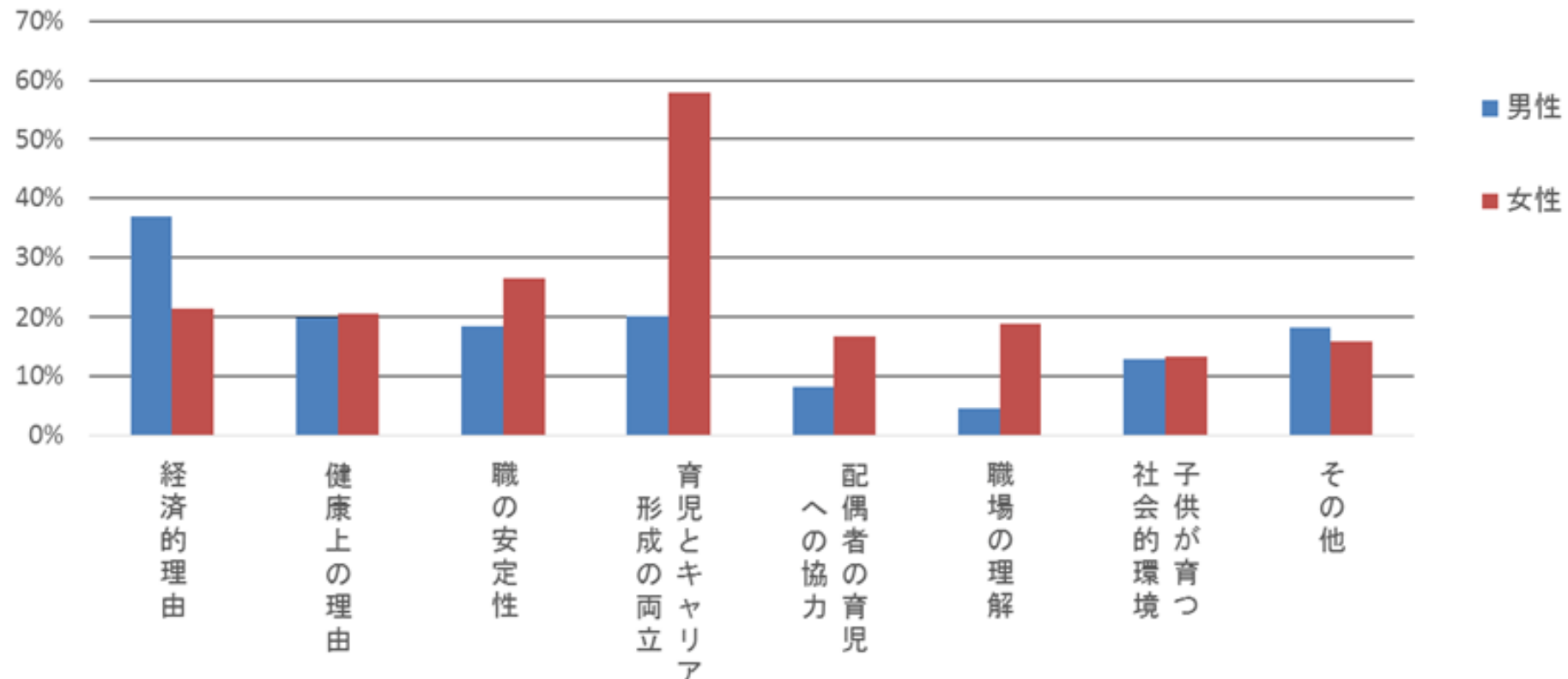
女性の60%近くは子供がいない
男性の60%近くは子供がいる

子どもの数の現実と理想



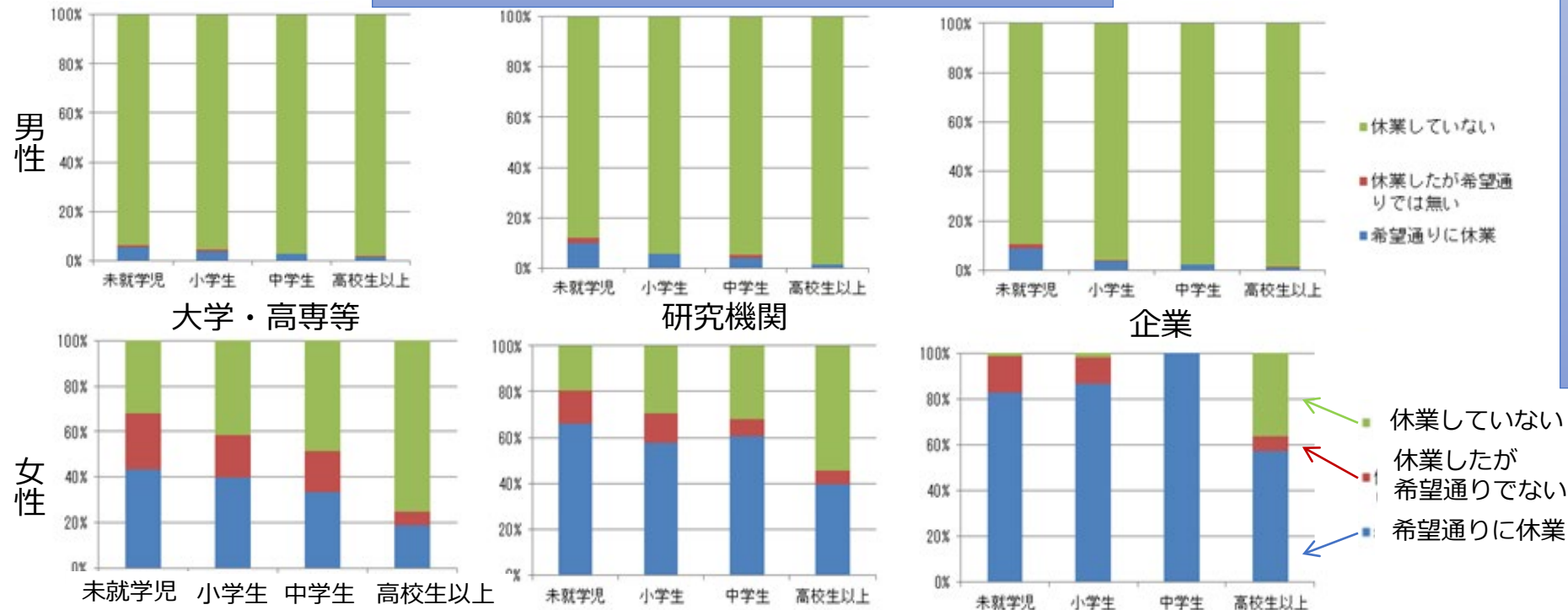
男女ともに理想の子供の数と
現実の子供の数には乖離があり、
その乖離は女性の方が大きい。

子どもの数が理想より少ない理由



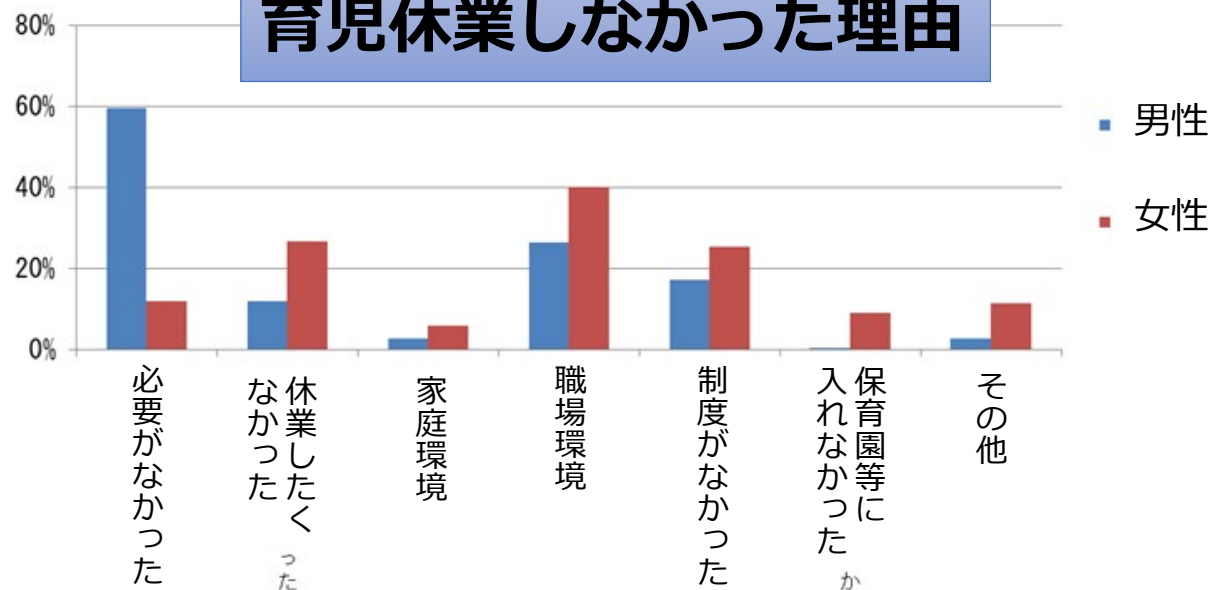
男性は「経済的理由」、女性では「育児とキャリア形成の両立」、「職の安定性」「職場の理解」が多い

所属機関別の育児休業の取得



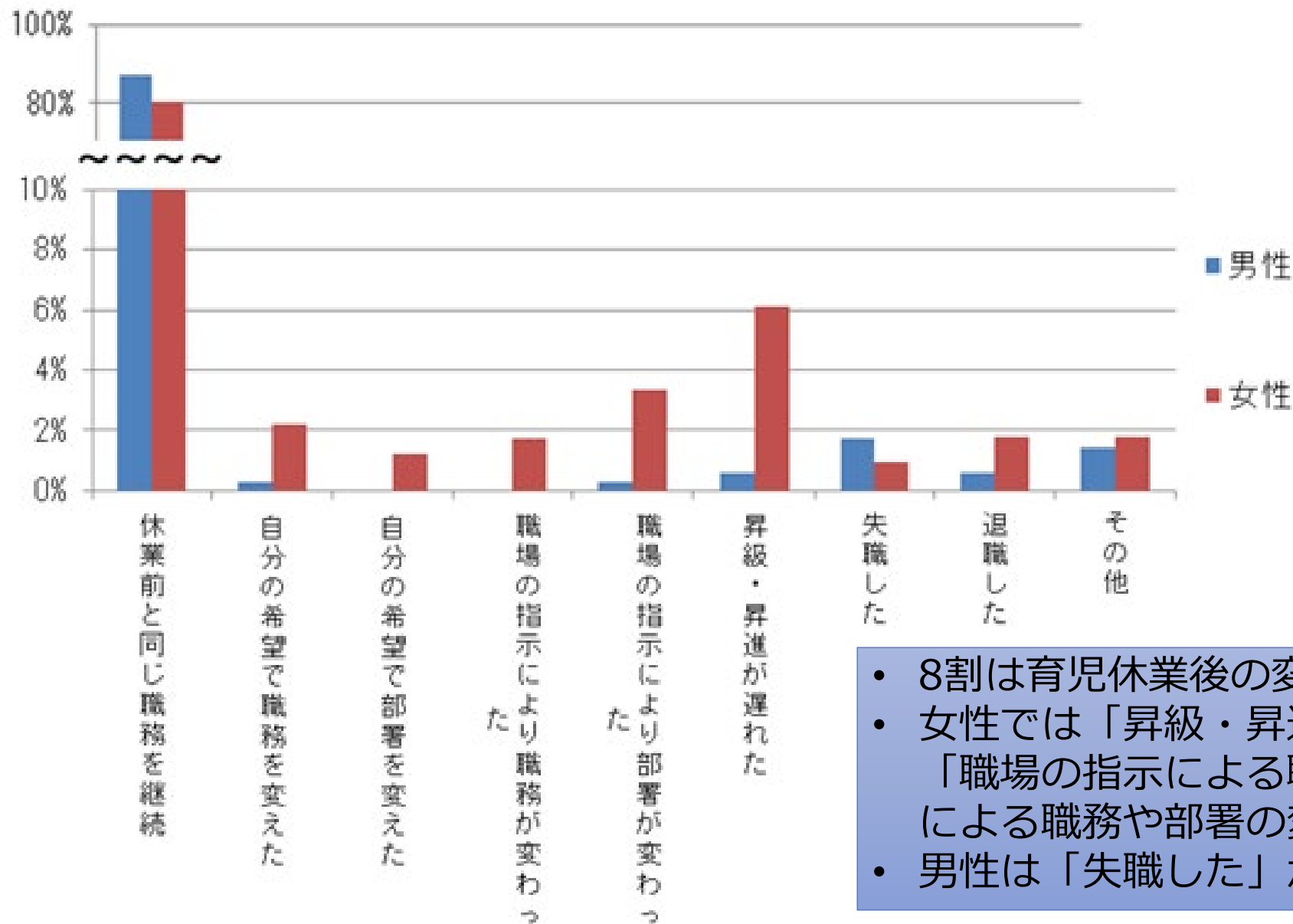
- 企業と比較して大学、研究機関に所属する女性の育児休業取得率は低い
- どの所属機関でも男性の育児休業取得率は非常に低い

育児休業しなかった理由



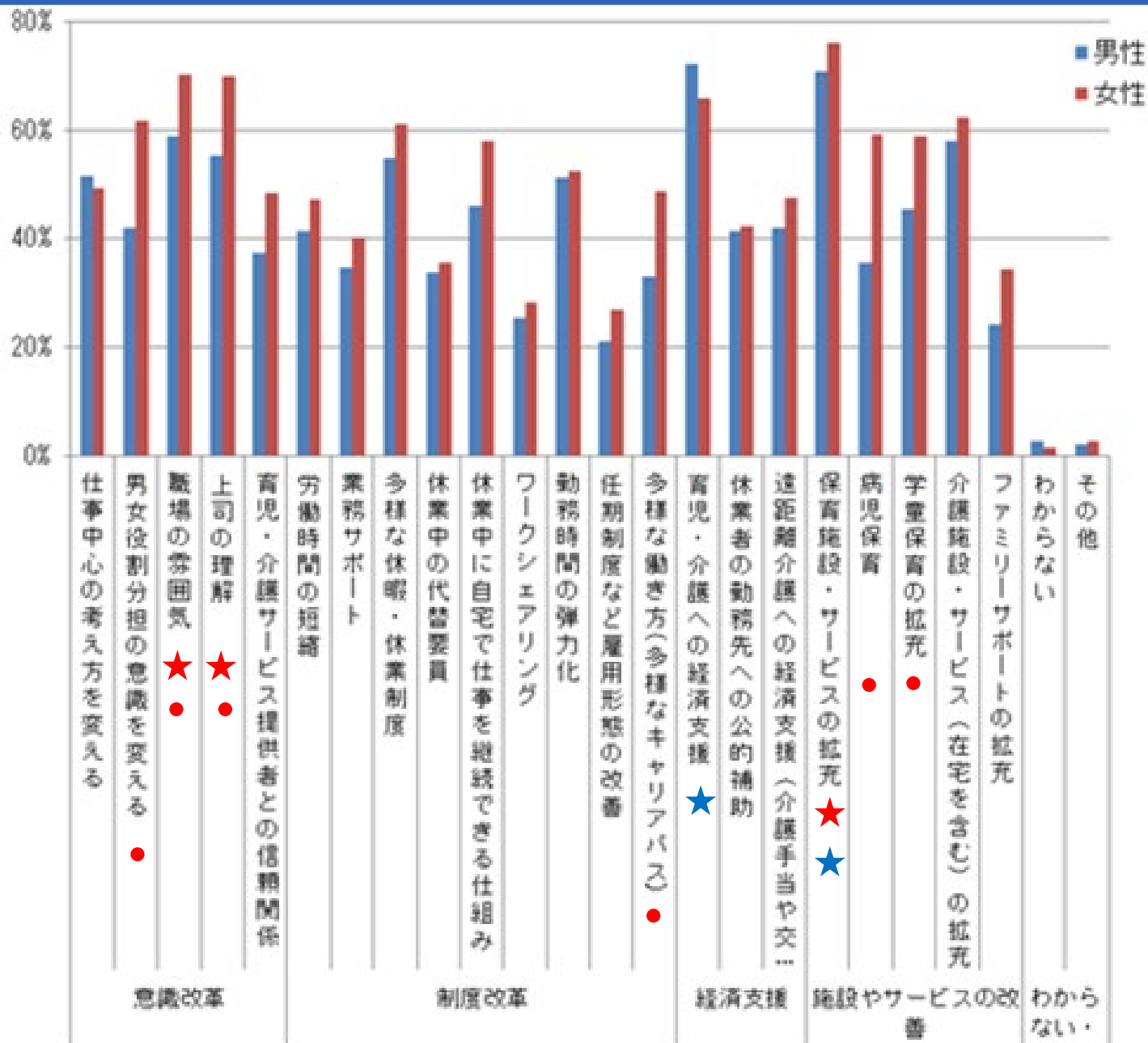
育児休業しなかった理由は男性では「必要がなかった」、女性では「職場環境」が最も多く選択されていた

育児休業後の変化



- 8割は育児休業後の変化はないと回答している
- 女性では「昇級・昇進の遅れ」が最も多く、次に「職場の指示による職務や部署の変更」、「希望による職務や部署の変更」が多い
- 男性は「失職した」が最も多い

仕事と家庭の両立に必要なこと



- 女性は「保育施設・サービスの拡充」「職場の雰囲気」「上司の理解」を多く選択
- 男性は「育児・介護への経済的支援」「保育施設・サービスの拡充」を多く選択
- 「男女の役割分担の意識の変化」「職場の雰囲気」「上司の理解」「多様な働き方」「病児保育」は、男性と比較し女性の選択率が特に高い

まとめ

- 任期付き職の高齢化や年収の低さが明らかになり、女性でより深刻である
- 女性は任期なしPIにつきにくい
- ワークライフバランスについて、育児・介護の負担は女性の方が大きい
- 男女間で意識の違いはあるが、育児・介護については経済的・制度的支援だけでなく、職場の理解や雰囲気づくりも求められている

